



研究テーマ

家畜・動物園動物・実験動物の適正飼養管理に関する研究

農業環境で野生動物の挙動をモニタリングする研究

動物のユニークな行動・生理・生態現象の発見と応用



坂本 信介

さかもと しんすけ

農学部
畜産草地科学科
動物環境管理学
研究室

講師

キーワード

動物行動、動物生態、野生動物管理、保全生物、環境生理、行動生態、社会行動、移動、行動範囲、採食行動、闘争、コミュニケーション、アニマルパーソナリティ、繁殖生理生態、家畜、動物園動物、野生動物、実験動物、哺乳類、鳥類

特許情報・
共同研究・
応用分野など

※共同研究
宮崎大学フロンティア科学実験総合センター・宮崎大学工学部・宮崎県木材利用技術センター・国立環境研究所・新潟大学朱鷺自然再生学研究センター・秋田大学バイオサイエンス教育・研究センター・(株)アークリソース・University of Jyväskylä (Finland) などの研究機関や企業の研究者と共同研究を実施しています。

研究概要

家畜や動物園動物などの飼育動物の行動や生態、飼育動物と野生動物も含めた周辺環境との関わりを調べています。動物が示すユニークな行動・生理・生態は、遺伝子研究が進み PC やネットワークシステムが発展した今日、農学・工学・医学などさまざまな分野で応用可能なシーズになりえます。同時に、これらは地域の生物や環境の保全にとって不可欠な情報です。このような考えから、基礎研究も重視しています。

1 家畜・動物園動物・実験動物の適正飼養管理に関する研究

人による動物利用は日進月歩です。動物を良い状態で飼養管理するには、利益を追求しながら動物福祉を満たす、バランスの良い方法を考え続ける必要があります。行動指標や体温モニタリングなど多角的な手法を用いて、飼育環境の変化に対する動物の応答を探っています。特に、動物本来の社会行動に着目し、社会的環境と子の成長・発達の関係について、増体と情動(心理)の面から調べています。また、新たな飼育設備・器具や飼料の効果について、行動試験をおこなっています。

2 農業環境で野生動物の挙動をモニタリングする研究

鳥獣類の畜舎への侵入や吸血性昆虫による家畜個体間の移動などの情報は、口蹄疫だけでなく、鳥インフルエンザや重症熱性血小板減少症候群などの人獣共通感染症の伝播・感染経路の解明に有効です。これらの疾病の脅威にさらされている中山間地域での人々のくらしや産業に役立てることを目的に、情報を蓄積しています。工学系研究者と連携して、ICTを用いたモニタリング技術の開発を目指します。

3 動物のユニークな行動・生理・生態現象の発見

家畜やヒトのストレス応答や季節性疾患、繁殖の季節リズムといった現象は、さまざまな応用分野で注目されている一方で、地球温暖化などの環境変動が進む中、生物多様性を維持していく上でも重要です。これらの現象を調べる上で、優れた環境指標動物、特性、実験アプローチを探しています。また動物の行動・生態の工学的応用について共同研究を実施しています。

ホームページ

動物環境管理学的研究室 <http://www.agr.miyazaki-u.ac.jp/~ags/labo>

技術相談に応じられる関連分野

- ・さまざまな動物の行動についての観察・解析技術
- ・野生動物・希少動物の保全や外来生物の管理を目的とした生態調査
- ・広く動物個体を用いた実験的検証

メッセージ

- ・共同研究の希望テーマ:行動の新規モニタリング手法の開発
- ・動物の行動や生態に関するニーズがあれば、ぜひ教えてください。
- ・動物の飼育環境を改善できる製品の開発ニーズがあれば、ぜひご連絡ください。